

▶学習館



▶観察棟入口



▶公開飼育ケージ内



▶剥製



▶学習館内部



▶瀧澤職長と石崎課長



▶

トキは明治以前、田舎の川や池でよく見られた。しかし、戦後、農薬の使用や森林の減少により、トキの生息地は大幅に減少した。1952年、国はトキを特別天然記念物に指定し、保護活動を開始した。佐渡島民が、新潟県と佐渡市、国、新潟県と佐渡市、殖産局が動き出した。1967年、トキ保護センターが開設された。調査などを行う。2001年、6月、佐渡島で自然繁殖が確認された。36年ぶりに自然繁殖が確認された。翌年初めに、ヒナが孵化した。2014年、人工繁殖が成功し、長岡市で自然繁殖が確認された。第11回放生会が行われた。長岡市と佐渡市が交流のある、古くから交流のある、佐渡で行なわれていた、トキの飼育繁殖支援する、野生復帰を支援する。

1952年国はトキを特別天然記念物に指定。佐渡島民が、新潟県と佐渡市、殖産局が動き出した。1967年、トキ保護センターが開設された。調査などを行う。2001年、6月、佐渡島で自然繁殖が確認された。36年ぶりに自然繁殖が確認された。翌年初めに、ヒナが孵化した。2014年、人工繁殖が成功し、長岡市で自然繁殖が確認された。第11回放生会が行われた。長岡市と佐渡市が交流のある、古くから交流のある、佐渡で行なわれていた、トキの飼育繁殖支援する、野生復帰を支援する。

(\*現・佐渡トキ保護センター)

保護増殖に取り組み、日本産のトキの絶滅する危険を避けるため、2007年から開始した。長岡市と佐渡市、長岡市トキ分散飼育センターを訪問した。2004年、H16年の中越震災復興のシンボルとして計画された。2011年、H23年4月に開設された。翌年初めに、ヒナが孵化した。2014年、人工繁殖が成功し、長岡市で自然繁殖が確認された。第11回放生会が行われた。長岡市と佐渡市が交流のある、古くから交流のある、佐渡で行なわれていた、トキの飼育繁殖支援する、野生復帰を支援する。

長岡市トキと自然の学習館「トキみへ」は、トキの分散飼育を通じて、子どもたちや市民等に自然環境学習の場を提供する。中越震災からの再生・復興の象徴と位置づけ、自然と人間が共生する地域再生・復興を目的として開設された。学習館は旧夏戸小学校校舎を使用し、1階はトキと自然の学習館、2階はトキの分散飼育の取組みを展示する。昭和初期から昭和30年代の「寺泊」の暮らしをジオラマで再現している。見学することができ、観察棟「トキみへ」では、トキの分散飼育センターで飼育しているトキを観ることができ、公開しているメスのトキはオス5羽、メス5羽と今年生まれのヒナ5羽が公開された。学習館のライブラリー、学習館のモ

ニターで観ることができ、トキが飼育ケージの中で池でジョウロを食へている様子や、時折羽ばたいて自慢の「朱鷺色」の羽根を広げる様子を観ることができ、現在47羽のトキが野生化している。トキの復活は、日本の自然の復活、自然環境の再生を意味している。



## (長岡市寺泊) トキを間近に観察できる!! 長岡市トキと自然の学習館 トキみへへを訪ねて

**長岡市トキと自然の学習館 トキみへ**  
〒940-2522 長岡市寺泊夏戸2829  
TEL. 0258-75-3201  
開館時間: 午前9時~午後5時  
観覧料: 100円 (中学生以下無料)  
休館日: 月曜日・(年末年始)  
至: 刈穂崎

当選者  
田辺利明さん(三条市)  
池田朝子さん(田上町)  
堀 雅志さん(三条市)  
石山岳穂さん(加茂市)

9月10日

**今月のクイズ**

Q 左図のマッチ棒を2本だけ動かして正方形を4個にして下さい。(棒の向きは自由)

# 夏が来ればの巻

社長  
安藤幸広

2022年7月8日、お盆、衝動的なニューズが日本全土を駆け巡る。自民党安倍元首相が奈良県大和郡西大寺駅前での参議院選挙応援演説中に何と銃撃されたというニューズが速報で流れる。同時にその映像も流される。このとても安全安心な日本と思われているこの日本で選挙応援演説中にまさかこのような事件が起きるとは日本中に衝撃が走った。救命救急医療措置の甲斐もなく午後7時3分に亡くなられた。事の顛末は今後明らか、安倍さんには心よりご冥福をお祈りしたい。世界中の政治家著名人からも続々と弔意が届いている。とても残念な事である。

さて話は変わり、本列島今年の梅雨は早々に明け、暑い夏が到来している。早くも水不足も起きており農業関係者等からは水不足の影響、農産物への影響が心配されている。早々の夏本番を迎え新潟

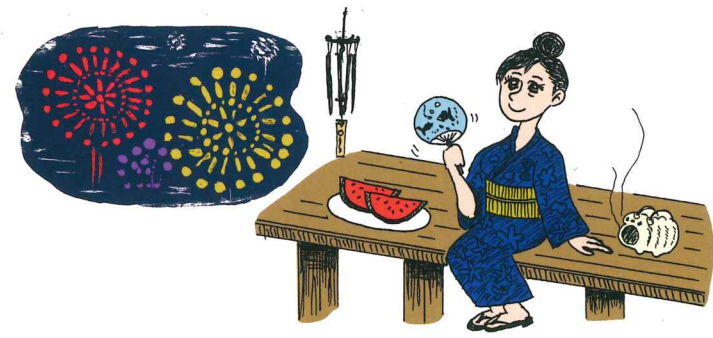
の風物を考えると先ずは食べ物かと思いが、夏と言えは思いつく、順に、枝豆、スイカ、なす、トウモロコシ、もも、岩ガキなどである。岩ガキなどは夏を乗り切る農産物は豊富である。そして最近ではエアコンの普及で見かける事が少なくない。浮かぶ「風鈴」も思い浮かぶ。昭和の時代とちう様の家の軒先や縁側に1個はぶら下がっていた。記憶が浮かぶ。風で紐でぶら下がって短冊の上の舌(せつ)部分が鐘本体に当たり音を奏でる風鈴。風の強弱や吹き方に音の色も様々に聞こえる。今でも真夏と言えは映像としても思い浮かぶ風鈴である。その風鈴の起源は約2000年前の中国がインドであると言われる。風の向きや音の鳴り方によって吉凶を占った。占風鐸(せんぷうたこ)が起源とされている。これをはるか前の遣唐使時代には日本に帰る僧侶等が日本に持ち

ら見ればガタイも大きい風鐸(ふうたこ)で、お寺の屋根の隅に風鐸を吊るし力ランガランと立てる音が聞こえる。その音が聞こえる範囲は厄除け効果や邪気を払う効果があると信じられた。この風鐸が家から貴族へ、武家へと伝わって行く。しかし最も庶民レベルまで普及に貢献したのは浄土宗の開祖法然上人(1113-1193)であった。小型の鐘を持ち歩き法説法の道具として使用し、災いを防ぐ小道具として信者にも風鈴を勧めたのであった。邪気を払う、厄除け効果がある等から瞬く間に日本全土に風鈴が普及して行った。当初は青銅や鉄製の風鈴しかなかったが江戸時代後期になるとオランダから無色透明のガラスの製法が江戸に伝わる。江戸ではガラス細工へなりガラス製の風鈴が大量に作られ、江戸の風流が全国に伝播して行く(江戸風鈴の誕生である)。札幌

にいたたら夕刻、偶然にも江戸風鈴を売る「風鈴売り」も見かけた。短い夏の札幌にいても江戸風鈴の風情を感じることができたのだ。浅草の風鈴売りは、夏の終わりを感ぜず、夏割ってよく風鈴を叩き、来年また買ってもらえ、と余分に買ってもらった事もある。また厄除けの他に風鈴の効果は体温を下げる、古来の証として医学的効果があり、風鈴を知っていた人は、風鈴を大量に消費して

下げる効果があると脳が錯覚して、2と3と涼しくなると感じるといわれている。古来の人は心理も良く分かって、夏の夕刻に打ち水、枝豆、そうめん、冷やしトマト、ビール、冷酒、風鈴の音を聞きながら邪気を払い、ひと時を過ごすのもお勧めしたい。

あんしん400号記念  
パナルキーズ6号  
あんしん400号を記念して、読者の皆様4名様に400号記念パナルキーズ16号をプレゼントいたします。ほしい方はクイズの答えとは別のハガキで「400号記念クイズパナルキーズ希望」と書いて株式会社安藤幸広まで送ってください。  
しめきり 20日  
加茂市京家特製 ケーキです



▼明珍火箸風鈴

